

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2024 年 6 月 8 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2024 年 5 月 23 日
明治大学卒業予定年月	2026 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	ニューヨーク州立大学ニューパルツ校(日本語名) State University of New York at New Paltz(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語 / 英語
留学期間	2023 年 8 月～2024 年 5 月
留学先大学で在籍した学年	2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月下旬～12 月下旬 2 学期: 1 月下旬～5 月下旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	6090 人
創立年	1828 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (\$ドル)	日本円	備考
授業料	\$ 0	0 円	
宿舍費	\$ 10,466	1,569,900 円	
食費	\$ 5,430	814,500 円	
図書費	\$ 255	38,265 円	
学用品費	\$ 0	0 円	
携帯・インターネット費	\$ 180	27,000 円	
現地交通費	\$ 0	0 円	(☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	\$ 1,466	220,000 円	
被服費	\$ 200	30,000 円	
医療費	\$ 0	0 円	
保険費	\$ 312	46,800 円	形態:
渡航旅費	\$ 4,526	679,000 円	羽田→JFK(往復)、冬休み旅行 JFK→Florida、JFK↔LA
ビザ申請費	\$ 350	52,550 円	
雑費	\$ 666	100,000 円	
その他	\$ 0	円	
その他	\$ 0	円	
合計	\$ 23,851	3,577,650 円	1ドル＝150 円で計算

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田空港 目的地:JFK 空港 経由地:	
復路 出発地:JFK 空港 目的地:羽田空港 経由地:LA	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社:JAL 料金:346,250 円	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:	
航空券購入方法	
☐ 旅行代理店(店名:) ☒ インターネット(サイト名:Sky Scanner) ☐ その他()	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)	
☒ 学生寮(寮の名前:Ashokan) ☐ アパート ☐ ホームステイ	
2) 部屋の形態	
☐ 個室 ☒ 相部屋(同居人数 7 人)	
3) 共有部分	
☒ バス ☒ トイレ ☐ キッチン(☐ 自炊可 ☐ 自炊不可)	
4) 住居を探した方法:	
学校からのメール	
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
トイレやお風呂を共有するスイートタイプの寮だったので、スイートメイトと話すことが自然と多く、仲が深まりました。オイルヒーターの騒音により、1 学期目と 2 学期目で部屋を変えるという選択をしましたが、それ以降は特に問題もなく新しいルームメイトとも出会えました。設備などでトラブルがある際は積極的にメールで寮の管理者や Residence Life に連絡し、それでも解決しない場合は友達から情報を得て新しい部屋へ移動することを考えていいと思います。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: ヘルスセンター)

2) 留学期間中、学内外で問題がありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

2学期目にクレジットカードをスキミングされ詐欺被害に遭いました。すぐに日本のクレジットカード会社に連絡し、返金手続きを行いました。5月上旬、帰国目前の時期に、パレスチナ人解放のプロテスト運動がキャンパス内で勃発し、警察が大勢の学生を逮捕する事件が起きましたが、ニューヨーク領事館からのメールに従い、安全に過ごすことを最優先しました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

Wi-Fi環境は整っています。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で銀行口座の開設はしていません。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

薬、クレジットカード(予備で2枚は必須です。)

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
26 単位	☐ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☐ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Social Inequality in the United States	アメリカの不平等
科目設置学部・研究科	Sociology
履修期間	2023 年 8 月～12 月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が1回
担当教授	Karl Bryant
授業内容	社会学の視点からアメリカの不平等を見ていく授業。
試験・課題等	毎週のリーディングとそれに基づくレポート、ディスカッションボードへの発言、期末試験
感想を自由記入	教授が学生の意見を真摯に聞く素晴らしい先生でした。オフィスアワーに行くと親切に質問に答えてくれました。アメリカの現状を人種やジェンダー、移民問題など毎週異なる側面から取り上げながらも、それぞれが極度の社会格差につながっていることを実感することができた自分の中で非常に衝撃的で学びのある授業でした。



履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Asian Americans		アジア系アメリカ人史
科目設置学部・研究科	Asian Studies	
履修期間	2023 年 8 月～12 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義・ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Nathen Clerici	
授業内容	アジア系アメリカ人にフォーカスを置き、彼らの歴史やアイデンティティについて講義とディスカッションで進めていく。	
試験・課題等	毎週のリーディング、オンラインでのジャーナル提出。中間試験と final group presentation によって評価が主に決まる。	
感想を自由記入	教授が日本語の授業の先生であることもあり、一番お話する機会があり仲良くさせていただきました。気さくな先生で日本の文学に非常に博識な先生なので、私の知らない日本の歴史を先生から学んだことで、さらに日本を含めたアジアの歴史に興味を持つようになりました。この授業を履修し、日本ではあまり語り継がれることのない日系人コミュニティの繁栄や日系人のアメリカ社会での文化や言葉の違いを超えた功績を理解したことは今後日本で生きていくうえでも非常に意義のあることだと感じました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
Communication Among Cultures		異文化におけるコミュニケーション学	
科目設置学部・研究科	Communication Studies		
履修期間	2023 年 8 月～12 月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とディスカッション(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回		
担当教授	Lauren Mark		
授業内容	文化の違いがコミュニケーションに与える影響やどうやったら上手に異文化コミュニケーションをとることが可能かについて学ぶ。		
試験・課題等	毎週のテキスリーディング、オンラインでのジャーナル提出。試験が無い代わりに参加率と final presentation が大事になる。		
感想を自由記入	この授業は一番留学生がいた授業で、とにかくディスカッションが多様な意見であふれていて面白かったです。また、コミュニケーションスタイルの違いでしばしば日本の空気を読む文化や本音を言わない習慣が例に挙げられることがあり、その際に自身の経験を話すと、クラスメイトが非常に驚いていたのが印象的でした。もちろん私が驚く文化も多く、アメリカのコミュニケーションスタイルやその背景を理解できたいいい機会でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Basic Piano		ピアノ基礎
科目設置学部・研究科	Music	
履修期間	2023 年 8 月～12 月	
単位数	2	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Akiko Sasaki	
授業内容	ピアノの基礎を学ぶ実践授業。個人でヘッドフォンを使用し練習していくが全体で進めていく。	
試験・課題等	中間・期末実演	
感想を自由記入	ピアノを基礎からゆっくり教わるコースです。ピアノ経験者には物足りない授業だと思いますが、英語で講義スタイルではない授業を受けることも楽しかったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Asian Cultures		東アジア文化
科目設置学部・研究科	Asian Studies	
履修期間	2023 年 8 月～12 月	
単位数	1	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義・ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が月に1回	
担当教授	Jun Lu	
授業内容	月に一回アジアに興味のある学生とアジアからきている学生がコミュニケーションをとりながらお互いの文化理解に努める。	
試験・課題等	Final Presentation	
感想を自由記入	月に一回ということもあり、毎回中国茶道やアジアフェスティバルなどのイベントを行ったりしました。自身のアイデンティティを強く感じる授業でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Intro to Women, Gender, and Sexuality		ジェンダー学入門
科目設置学部・研究科	Women's, Gender & Sexuality Studies	
履修期間	2024 年 1 月～5 月	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	レクチャーセッション+ディスカッションセッション(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 100 分が 2 回	
担当教授	Leigh Dodson	
授業内容	女性学、ジェンダー学、セクシュアリティ研究の入門学であり、特に基礎的なフェミニズム思想、問題意識に基づく基盤、社会運動主義に焦点を当てている。	
試験・課題等	毎週のリーディングに対する注釈を自分でつけ、理解力を深める。ディスカッション 試験:Final Take-home Exam	
感想を自由記入	一言で言うと非常に自由な授業でした。先生が学生一人一人の個性やアイデンティティを尊重してくださる方で、クラスメイトも私も安心してフェミニズムに関する自分の体験を話したり、意見交換をすることができていました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Intro to Sociology		社会学入門
科目設置学部・研究科	Sociology	
履修期間	2024 年 1 月～5 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が1回	
担当教授	Andrew D Horvitz	
授業内容	社会過程、社会的相互作用、社会階級、人種、ジェンダーなどの社会的不平等に焦点を当て、人間の行動と社会との関係を考察する。	
試験・課題等	毎週のリーディング、ディスカッションボードでの発言、中間・期末テスト	
感想を自由記入	前学期の「アメリカの不平等」の授業で社会学という学問に興味を抱いたので、1 から学びたいと思い、履修しました。主にアメリカのことに主軸を置いていましたが、基本的なことから専門的な用語まで広く学ぶことができ良かったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Principles of Cultural Anthropology		文化人類学
科目設置学部・研究科	Anthropology	
履修期間	2024 年 1 月～5 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義 & ディスカッション (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Jessica Holtz	
授業内容	文化人類学の概念、理論、方法から文化や人種、民族が社会生活に与える影響について学ぶ。	
試験・課題等	毎週のリーディング、中間・期末テスト	
感想を自由記入	先生が日本で教えていたということもあり、最初の段階から気さくに話しかけてくれたので安心してディスカッションでも自分の経験や意見を話すことができました。日本のキャバクラやホストクラブなどが同性の交流を促進する場として文化人類学的に分析されていたのが衝撃的で、そのような外から自分の文化や民族行動などを見ることの面白さを実感した授業でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Graphic Design		グラフィックデザイン
科目設置学部・研究科	Art Studio	
履修期間	2024 年 1 月～5 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	チュートリアル (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 170 分が 2 回	
担当教授	Etsuko Rosenblum	
授業内容	形、色、構成、意味を通した視覚的コミュニケーションの原理を理解することに焦点を当て、グラフィックデザインの専門的な実践方法を紹介するとともに紙、鉛筆、ソフトウェア、コードなど、アナログとデジタルのツールを使ってプロジェクトを完成させる。	
試験・課題等	4 つのプロジェクトと Final Presentation	
感想を自由記入	Adobe プロダクトには根からの初心者でしたが、先生やTAの方に毎回質問をしていくことで分からない状態を解消することができました。もともとデザインをすることが好きだったので、大学の授業で学べることは絶好の機会、自分の好きなことを深められたとてもいい経験でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Asian Cultures		東アジア文化
科目設置学部・研究科	Asian Studies	
履修期間	2024 年 1 月～5 月	
単位数	1	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が1回	
担当教授	Jun Lu	
授業内容	アジアに関する様々な文化イベントや講義に参加することで共同学習の実践、西洋文化、中国文化、日本文化の違いを識別し、説明する。	
試験・課題等	Final Presentation	
感想を自由記入	前学期同様、イベントを通して日本や周辺の東アジアの国々の文化や歴史について学びました。この楽器ではアメリカ人が非常に増えたので、日本文化について説明することが多く、自身の説明能力がついたのではと思います。	



卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

帰国後、周りの日本人学生とのスタートの差に不安に感じるかもしれませんが、留学した学生だからこそ成長したことや学んだことを振り返る時間を作ってあげてください。周りとは比べる必要はないと思います。私も今就活をはじめたのですが、自分を客観的に見ることができた留学という経験のメリットを生かし自分と向き合いながら頑張っています。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ~ 3 月	高校卒業
	4 月 ~ 7 月	漠然と留学を希望
	8 月 ~ 9 月	TOEFL 取得、留学志望先決定
	10 月 ~ 12 月	留学面接・決定
留学開始年	1 月 ~ 3 月	奨学金申請、パスポート更新、残高証明書発行
	4 月 ~ 7 月	奨学金面接、履修希望提出、ビザ手続き・面接
	8 月 ~ 9 月	出国、1 学期開始
	10 月 ~ 12 月	授業、友達作り
留学/帰国年	1 月 ~ 3 月	冬休み旅行(ニューヨークシティ、モントリオール、フロリダ)、2 学期開始
	4 月 ~ 7 月	春休み旅行(ワシントン D.C., ボストン、ナイアガラの滝)、5月帰国
	8 月 ~ 9 月	就活
	10 月 ~ 12 月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

ニューヨーク州立大学ニューパルツ校を選んだ理由は、人種や民族が多様なニューヨーク州に身を置くことで、多文化の一つとして共生する体験ができると考えたからです。また、社会学や移民学、ジェンダー学といった自分の関心のある専攻分野が充実しており、自身が関心のある多文化共生に関する学びを深められる学校だったため、留学を決めた当初から第一志望としていました。

9 か月の留学期間を終えて、ニューパルツ校で日本人留学生として過ごした経験、そしてアメリカでの人種的・民族的マイノリティとして過ごした経験は、自分を客観的に見つめ、刺激的で切磋琢磨しあえる仲間や人との繋がりの大切さを大いに感じる機会を与えてくれました。コンフォートゾーンを飛び出し、常識にとらわれない考え方や言語や文化の違いによる葛藤とチャレンジを経験したことで、自分を大きく成長させることができました。読んでも読んでも終わらないリーディングの量に泣きそうになった日々や、周りの学生の英語の速さや時事問題への意識の高さに圧倒されて自信を無くしたこと、多様な人種やバックグラウンドを持つ人々と関わることで自分をレッテル付けられているように感じた経験、人権問題に声を上げる友達からの刺激など、数々の「初めて出会う厳しい現実」に直面しましたが、その都度立ち止まって自分は今どう感じたか、そしてどうやったらこの環境をいい方向に変えていけるかということを考えるようになりました。

チャレンジングな環境に身を置くことで、課題にどのように向き合い、解決するかを考え抜き、最後まであきらめない粘り強さが身についたとも感じています。また、新しい自分の側面を発見することもできました。例えば、日本にいたころはリーダーを任されることが少なかったのですが、個人の意見や多様性が尊重され、自由で柔軟性が高いアメリカの大学では自由な考え方、またそれに基づく行動力を身に着けることができました。私がこの大学にきた当初はヨーロッパの国々やラテン系の学生のコミュニティはあったものの、日本のクラブがなかったため、アメリカ人の友達と共に日本とアメリカの文化を交流できるクラブを設立しました。自分の思いを形にする経験をする事ができたことは、一番の価値ある経験です。

自分の限界を知り、試行錯誤を繰り返して成長するということは、居心地の良い場所にいるだけでは経験できないかもしれません。もちろん、専門の勉強や英語の勉強であれば日本でもできるかもしれませんが、私のアメリカでの必ずしも楽とは言えない経験は一生ものと言っていいほど私の人生を変えてくれました。少しでもこの経験が、留学を迷っている方の後押しとなれば幸いです。頑張ってください！

